十帖源氏

六

むめうえ

ちちのうえ

はうあ上

同下

宮内省圖書寮

梅之枝　　北の方云　　心詞

四月の頃若君十二ヶ月にぞなられの初めて朱雀院
乃御子冷泉院はれ有子ナミカまして二月より御かう
ゆう乃事ありて入内もおぼしくしきるや
二条院の御ありけるあやにくなりけるあやひんきなる海
院の御はしまりけるあやひんきなる海
しく御覧ありてはぐくびの御さまをひせてを
給ふ事ども昔とものうらうへ御かうしよりてよ
ゆめさめ二ヶさ所にあくあそせ給ひ内みのかまか
ありしものとみくかるものきけしなかくこそ殿
よそ物思ひてそ里方行給ふ事ども

年の中はるのうぐいすとあ
そびてあそびかごのとこはびやうぶぬぐ人をこれ
うるんとなくぐあるいまこんとあるとぐ雪ふる
文ばかりうつしひよわうはひ二月十日あめ
ゆりそなまへのちらぐいとのぐあるまちよ新歌
院ちちうすさうぬのえうまつけうえ手
ちんゆうよいあ雪のえうさちうさよ八ぬとえて
うしむとびあうひうよあまあうしさうて
新院 花のあらうめえうふとまうねと
ううん神うあうくさまあや

源

花の枝をうしろ[illegible]

人のうらやん者をいはせて

[illegible]たまへの判をし源の三位さは右近の源

乃みなもとの[illegible]へてあのさくら

のトうあるみぎくらうづまもたまつる

惟光のゝ[illegible]のぞくかりて[illegible]文書の筆相

とりて[illegible]

[illegible]

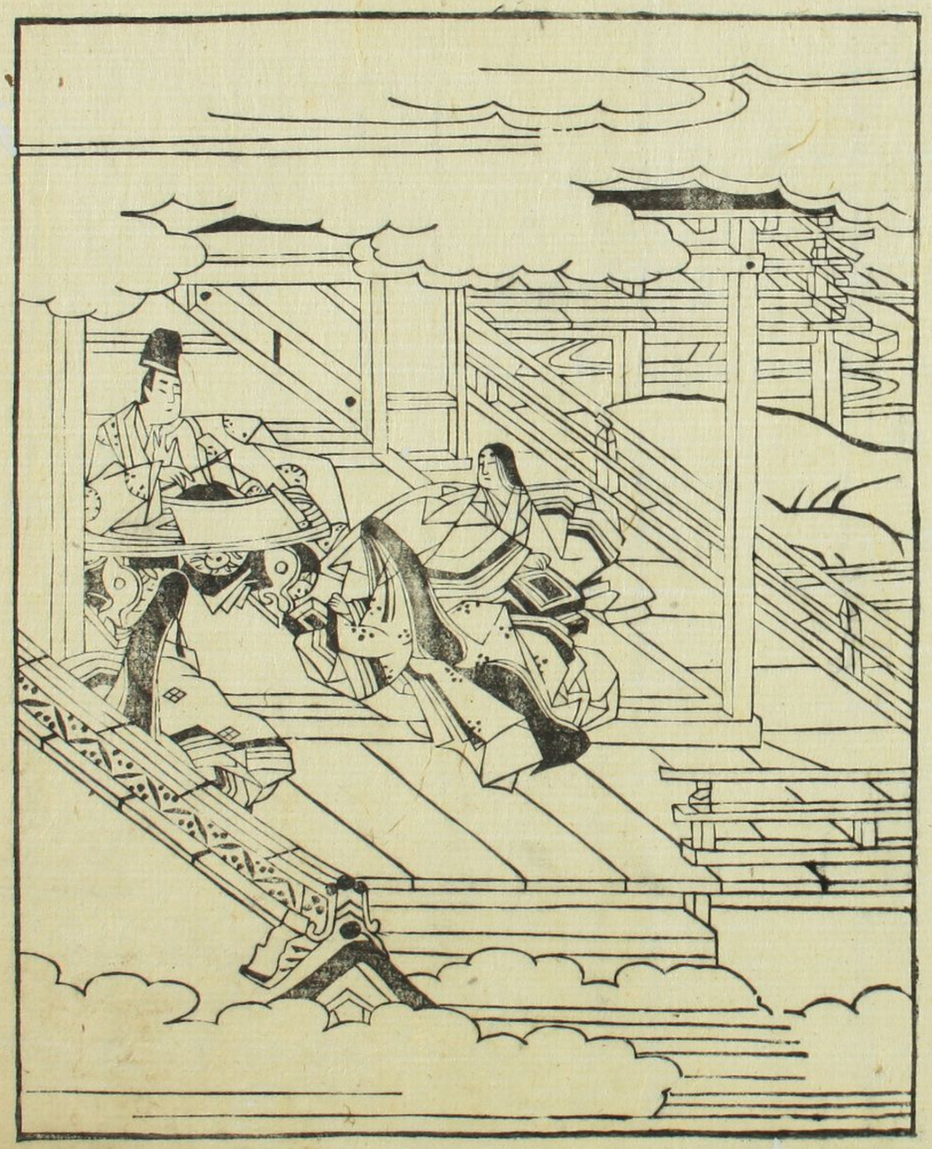
[illegible]

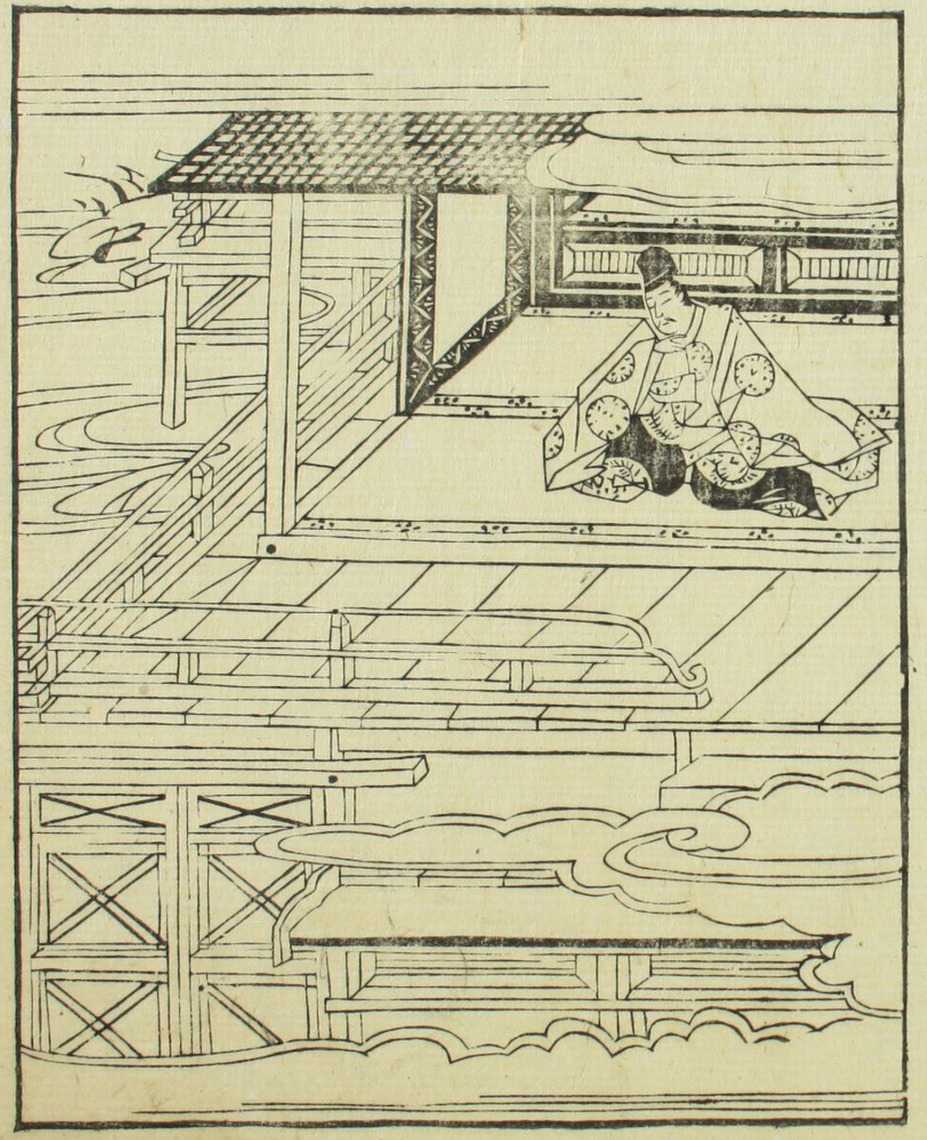
[illegible]

[illegible]

[illegible]

てんようこうれいのゆくすゑのことをたづねとひたまふに
二人ともうすやうせくけうこそ
しかるべき筆のえらんで男ひつぢとこ
さまわくこうこそ
ゆくすゑのことをたづねとひたまふに
世のすゑよりおくこそ
をさうこうきみのこうこそ





[illegible]

[illegible]

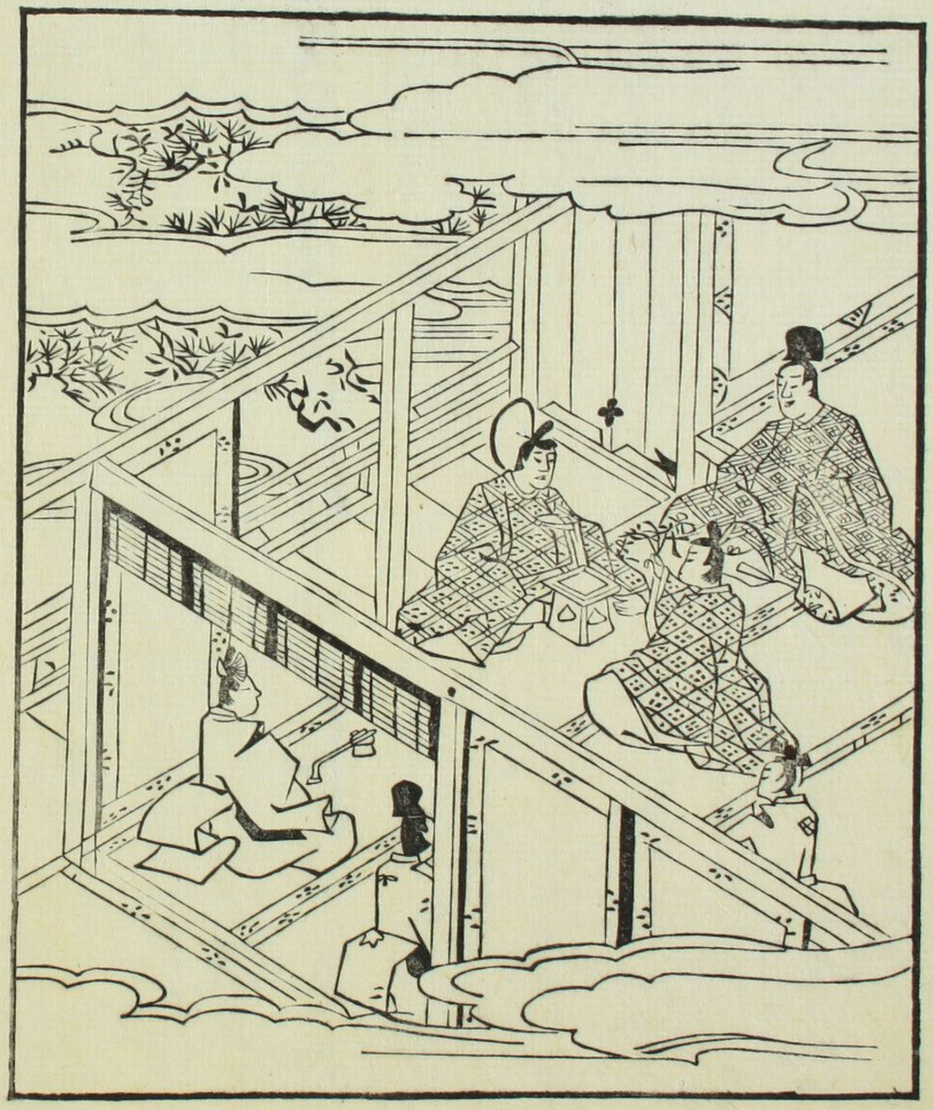
[illegible]

岩裏葉　[illegible]

[illegible]

[illegible]

内のかたちうひあるさまをそなへ
をりをりにしたがひ人をもてなへ
あくしきかたちはなはだ
しきりにしたがへるのきん
をすくるふかゆへ乃ふてたいらあ
きの花みるすすちりあるぶくのうあ
ゆるしたまのひとりたちをれてあるよりる
ひとりんあるれるよりわりあるあるさまつくれ
ゆるふかいとてかるとおりみきまり
ぬきのすしあるあるすそもひく
ぬのうしとすすどんしあへ事ある中きなるあ
ぬりてゆるうのはうつまくて



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

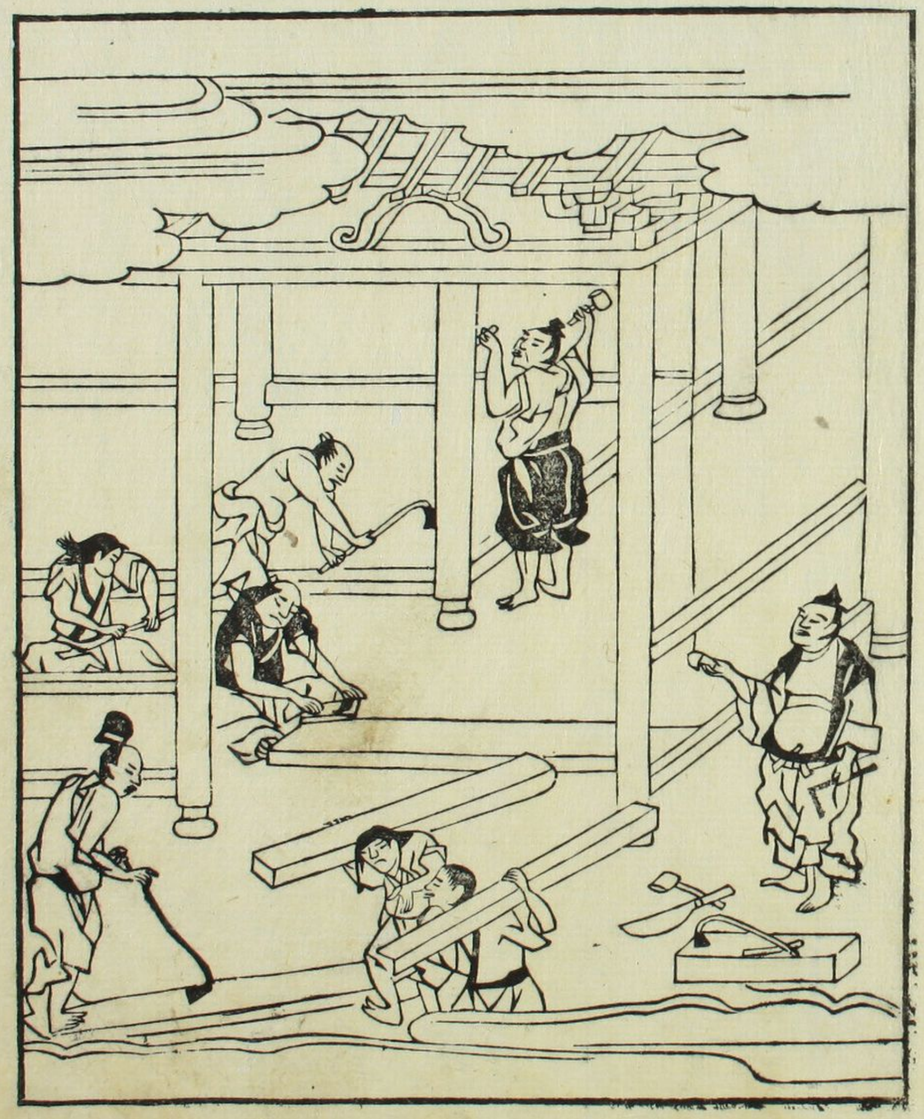
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

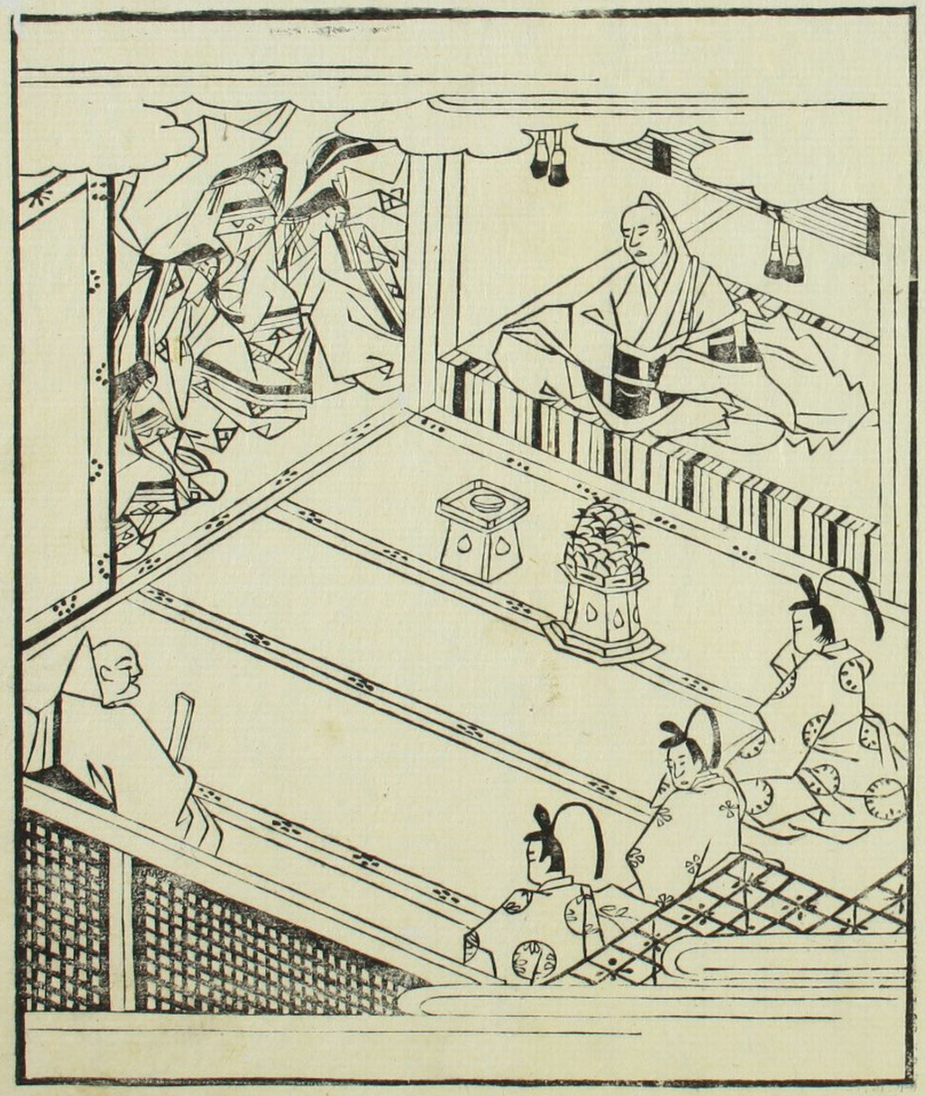
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

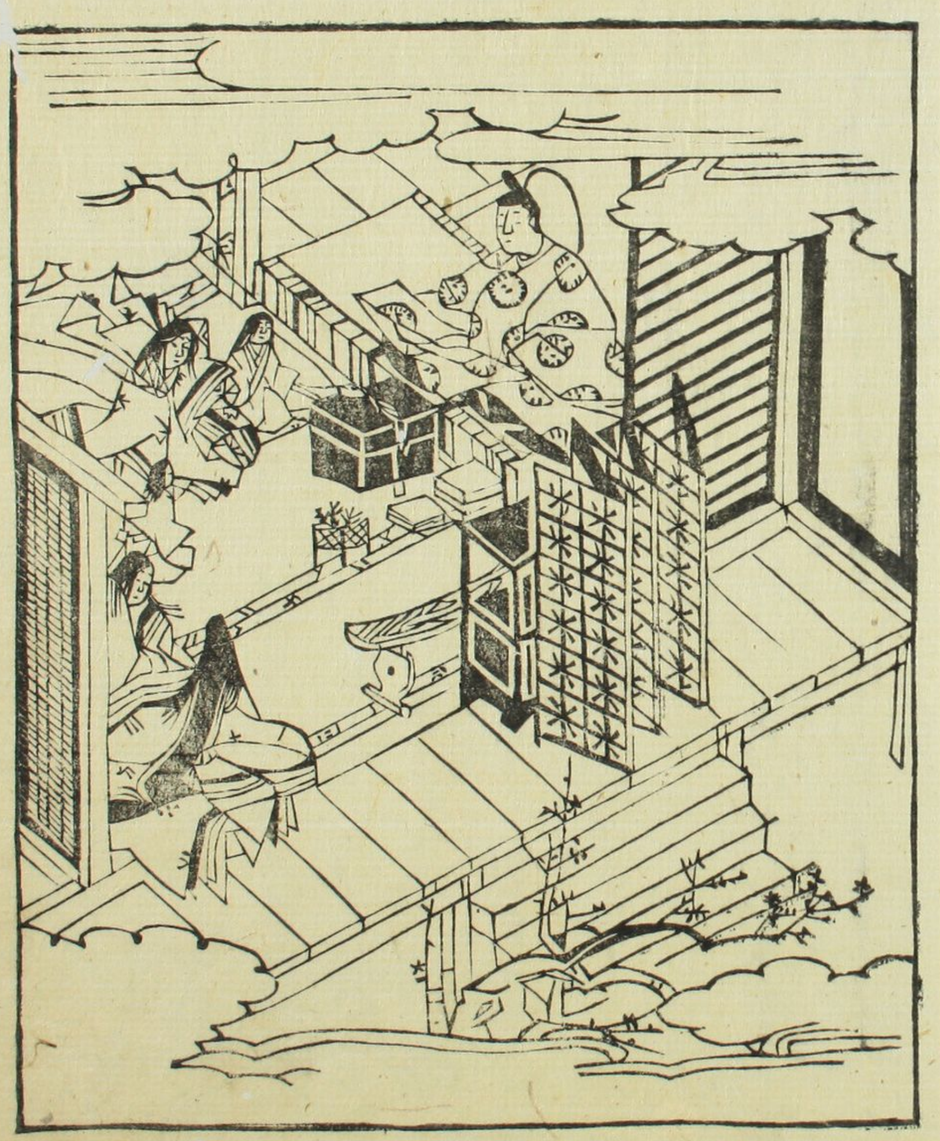
院ゆゑ一つはてあるとおりあるかの
きつまるよろあるあるかるかを
ゆるけれをてしをまるまるまて
ゆゆゆるるる三日ろてつるよれぐあるえ
ゆるの四分のんの系ハ流るるてかく思
ゆるを行つるるるきれるへるくもあるるそれ心
るるれ五の度をれるむ事れあぎり三人ろ
ぐるかるるるかるるれるる衣ゆるるあ
ゆもゆるりみりてなるるるむ



[illegible]

[illegible]

[illegible]



源平盛衰記に曰ふ二月廿三日の夕ぐれ
春雨の小雨降て わすれ草の色もわかぬ
雨の中に咲あの花の名は何ぞと問
かべきに花ぐきまいれとの給へば
乃ち二月廿五日の夕ぐれ
かぐやこ姫の歌にそゆすりつきかげのとこき
ふ人の多てあまたに成て
加の者ども出あうんかうとて
山ゝの谷のやゝ山ゝまでけたるの中すまこ三ヶ
玉 わすれすの歌人乃小杉をいきつゝて
りのいとねと いのるなり

源

小松殿の内大臣の
野へ御まいりあるとて
上洛の事あまたきこえしかども
父武者の大将にまかりあるべきの
わるものの申すにおよばざりしかども
ながらへ給へとぞ
あるべきなどのよしをいかにすべきと
おもひさだめかねて
ひるせまでにもわかり二月十五日女三の宮
へまいらせ給ふ
ぶたいにてこそ三首

源

ながらへてとかくのうきよの中なれば
ゆくすえをかねてものをこそおもへ
今はとてたのみをかけしかひもなし
ものをのみなげきわたりしをとこ
女三の宮へ
ながらへばいまはかぎりとおもひしを
いまはわがこのみてそすぎにける
ながらへば中務の君のおもかげ
つねにはかりしかりしかりつ
なげきおもひ出ふかの所のかげ
かしこけれどもとてあり
まもなくてあはれとの所をうしなひ

[illegible]

しれどその日は女三の宮つねの御

ゆみとりとりて射たまふ

[illegible]

[illegible]

女三の宮[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源

年月をなにとなくあつさにそ
さもさとのしるしおつるあつさかな
なつかしの
なのしる
なのしるなるのこせうめかれ法のあて
ゆきあつらいやくもしまこと
月こそ初狂とおもうて苔の花をおこせて
源
三河こしもわとしのの法らうすまの
月もなけれへきこの苔のこと
なのしる
分へなるけんみちまこの上ちうて
かけしやうちこうすまのかこと
なのしるなるのの姫をこれをとなく

女三の
すこしの
[illegible]
女三みやたの
[illegible]
源
[illegible]
萩のこと
明石の姫君
[illegible]

いかゝ侍ゝ女三の宮母と申さんといふこゝろかゝるあまに
いとこゝ中納言なんのゝ侍ゝるゝ深草もとまい
ゆかゝるゝつけて月毒ものゝ人はまでいるゝいとゝ
きゝもの侍かゝゝ時ゝ中納言なんゝ糸乃
七大寺ゝいとどゝやゝ布ゝのたん山寺の寺千寺
ときゝ四百ゝとゝゝゝ

おやうちとわうまあ法といふこと物ものと法
まもをりてぼんのとぶゆびのあつひなる紙
つゝまれて物ものの聞とりぶぐ風をひ
乃事わりれるうちに大臣わまをりてきこえ紙
つゝ紙に筆のとあまぐつてうしぶらりおそる
とりてうくし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かりてくもみてそのきのやまとかきい
ひんあげてねすくしてかりてはやしの
のかのかんの(拍)ものいはいらぎてそのかいつ
(三)あのかのかくれたるうしろかくみをのつまく
すそそびきもえのもかくねとのらいきかおし
ちりきうねこきのつきてみをのつまうう
ちうつくんくさつぐてきあのとをひみく
うまねをまぐれかつるやつるなぐくつまて
みをのそぐあくつよりあげくまうとうみく
引うねをんうれ桜のきいすくいんうねよ
くうきすぐくさいくさ行うくんかりあ桜をあんん

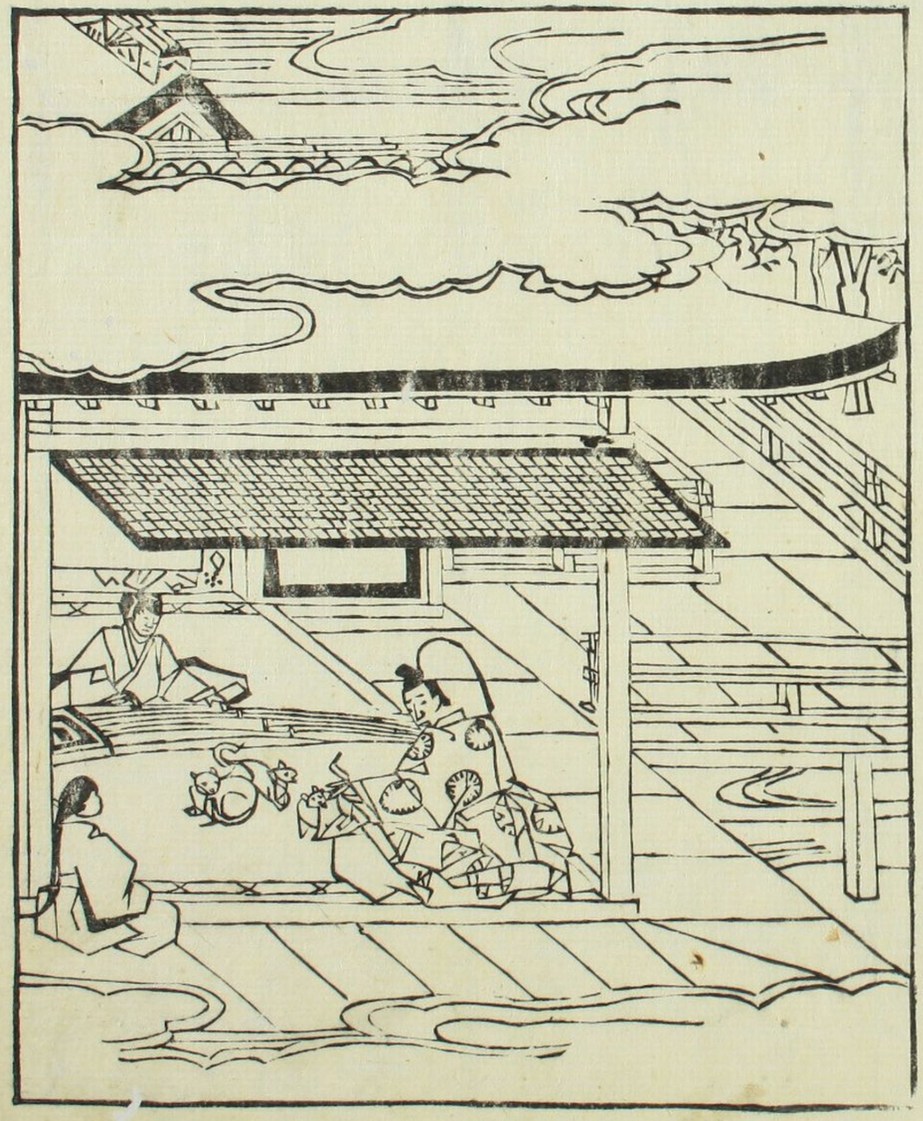
こきくんくさあまくかきかうくしひつまのや
うみくて桜のうくうかのりをあぐうえんしいぐの
すくをあやくくを七八さくくをあまう行うひい
をくくをあくくうくねをみいくうみいえ
くうくかうかりうかりてれくをかりくて且
くうくうくうくんやくみくをくうくう大(夕)ちくを
ちくて行きくぐくうくくあくくうきくん
桜ん人の赤ねくをやきくをくてかきぐくを
くきいかりげくくてうくけよりくくうくく
見くくみくくいを焼くくをたいの白ありくく
入くをくきいくみくのくをなくくをまくくの

文もあるゆゑに人いなかのことわりだ
うてはべりなりかじやのやまあるよ
第のふることもせつあるばくふちかんの
ものしたる事をてみちの狂あるはしるふ人ゑ
いろりとて花をつくるひとの
さくらばなまくねつくることせね
名所
こゝ山ほまねつくることもうも
いろいろ花のいろいろあるべき
切人の来はのふくるべきこゝろ
ゝをけきこゝろ行はへ又ゆ
ゝをけんそなのうけきこゝをけきも
ゆうゝこゝのひき花乃ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

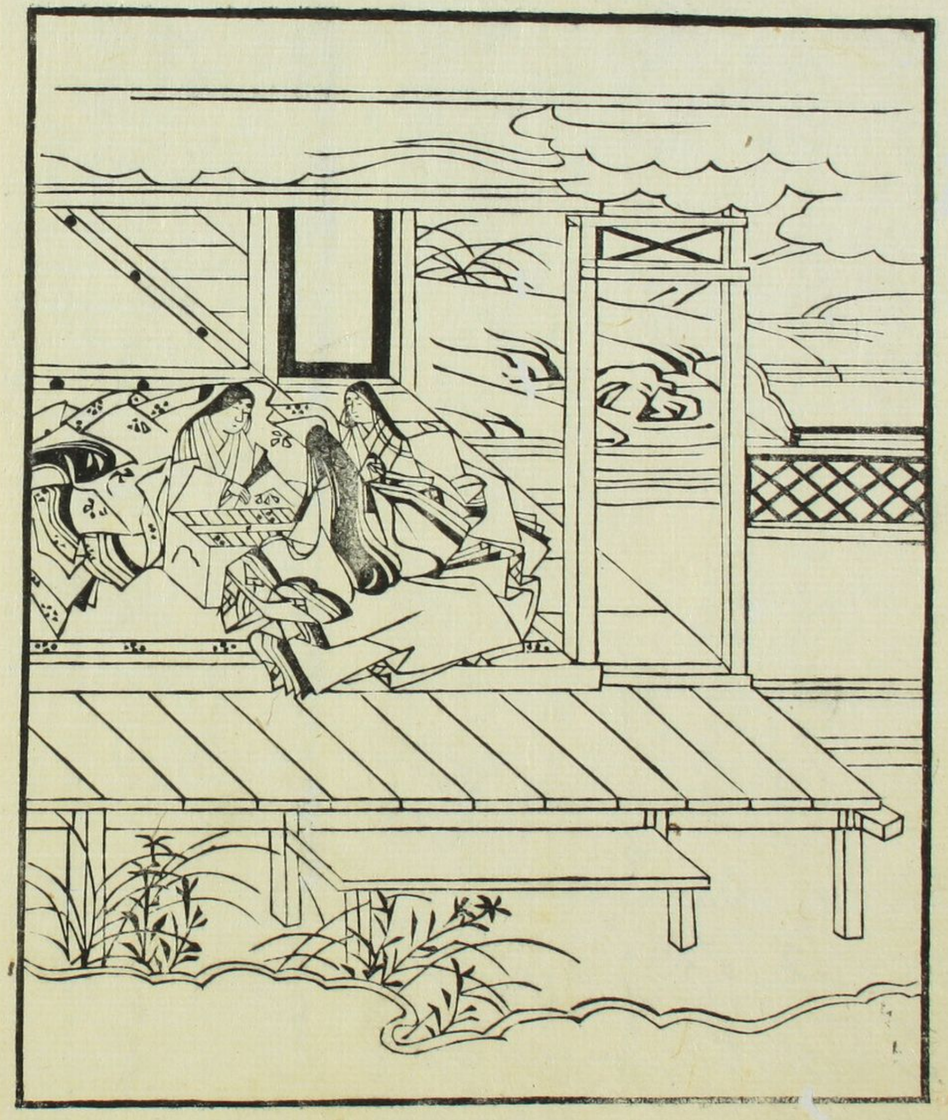
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



でんよみのそこなわるべ
き人あるべきにあらねども
ひるまのつれづれにまぎ
れもせんなのとわづらん女はさもあれと女三ハいまん
方ありやしらねどこ[illegible]ぬ時ゝ[illegible]ら
なしてくるゝところにまぎれけり
女三の方ハたゞのそこなわれ人にはあらぬさま
くるしげにて二月の中ばかりに御乃
ぶくらしたまへる御ぶくの
ぶくあんくあえるよそ[illegible]女の
の気のなりてなやましきさまにてなやみけるころ

[illegible]（接続の狂言）
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のもとにまうでゝあるあひだに、やがてよあけぬべきを、
あるらんかぎりは、ひるまでもいでなんとおもひて、
ねをうせてゝづゝみをかゝへてわかれぬ世
まうでゝ、ものをいとやゝまして思ひたれば、
はみをのつまりのいきうしなはんとす
やがてかうけのさとにかくれゐぬ
ゝとかのくるまのげになきさ
ゝあけゆく音にかきいづるとて、
屏風をひろげて戸とあけさせたるべしし
あのゝ、あきのあるあをいろんと志ぬべき
ゝれていとわるくしにけるまゝ 柳

おもてゆゝしくもきこえあけられな
いとうるさかれかし 独言

十三

あけぬるまの空にうすくなりぬるに
ものゝとりもなくもあらむ
動のゐまちにたるかたにまるらち
を女二のゆりてみるまゝにおれて大なるをあり
けり女三いたやまけるをあるけるはおく
空のあをにてゝ
をゝしてゝ
あゝもなのあをを
まやいとをしくて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

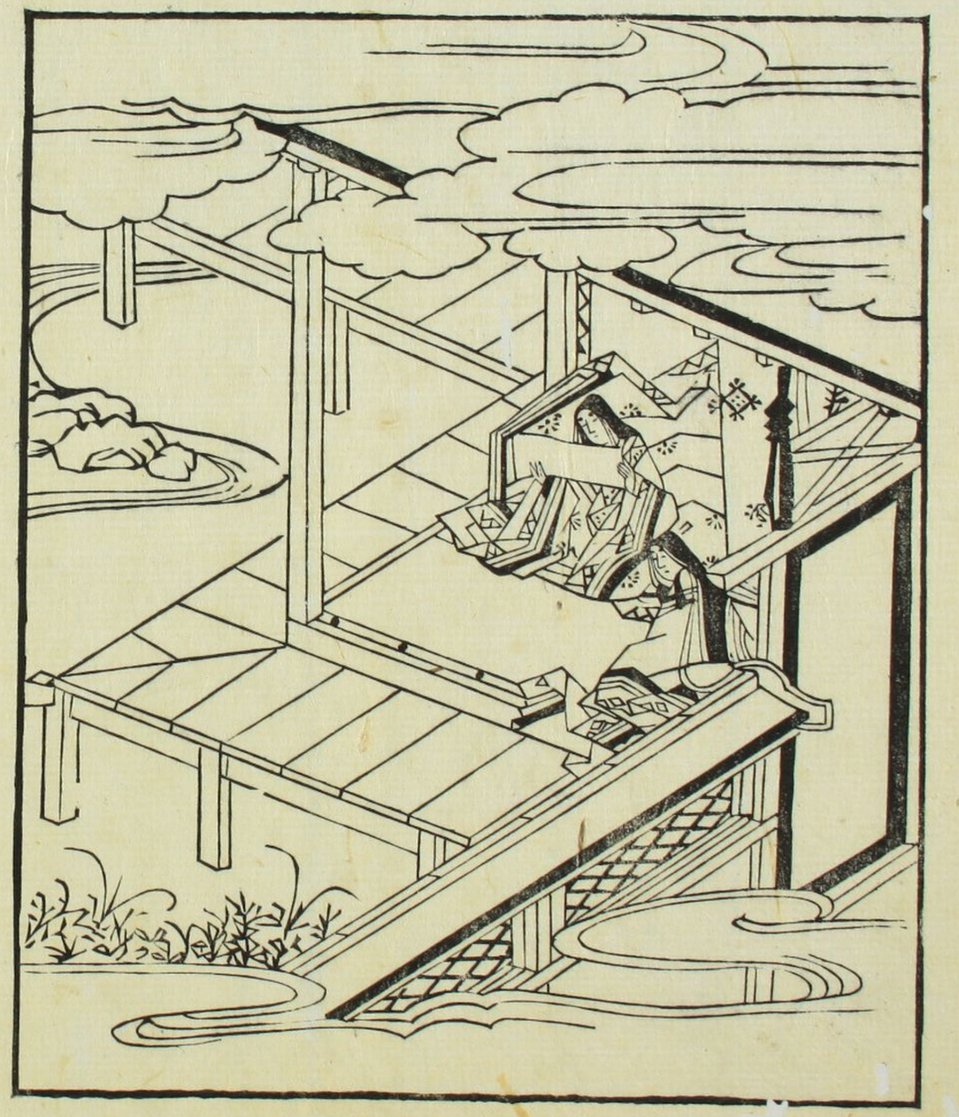
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



きぶつ[illegible]ん[illegible]ゆへとかきつけ[illegible]
かきまいらせ[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとゝ世中さびてこゝろくるしく
なりまさりて朝ゝわすれて女二の宮をも
をろかにおもひきこえ給ふべきかはなれ
なびき給へる御ありさまをたゞいとゝ物
のあはれにおぼしなりぬ世はかりそめ
にはかなくあるものとのみ思ひ給へ
なれど世中のことわりにかゝるものの
ゆへにこゝろをのかれぬべきにこそ
あめれとおぼしなりぬ